

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	普 通 預 金	当 座 預 金	未 収 入 金
発 送 費	未 払 配 当 金	売 上	資 本 金
繰越利益剰余金	貸 倒 引 当 金	電 子 記 録 債 権	立 替 金
売 掛 金	備 品	仕 入	前 受 金
受 取 手 形	利 益 準 備 金	ク レジ ッ ト 売 掛 金	支 払 手 形
前 払 金	電 子 記 録 債 務	損 益	買 掛 金

- 株主総会で繰越利益剰余金¥50,000,000の一部を次のとおり処分することが承認された。なお、当社の発行済株式総数は7,500株である。
株 主 配 当 金：1株につき¥400
利益準備金の積立て：¥300,000
- 山梨商事株式会社に対する売掛金¥12,000,000および敦賀物産に対する売掛金¥7,800,000について、取引銀行を通じて電子記録債権の発生記録を行い、承認を受けた。
- 当期の期間収益および期間費用を損益勘定に振替えた結果、損益勘定の残高が貸方残高¥20,400,000となったため、当期の純損益を繰越利益剰余金勘定に振替えた。
- 得意先那覇商事に対して商品¥1,000,000を販売し、代金のうち700,000は先方振出しの約束手形で受け取り、残額は掛けとした。また、先方負担の発送費¥11,000を現金で立替払いし、当社では売掛金に含めて処理する。
- 本社で必要となった備品¥1,500,000を購入し、代金は据付費¥88,000を含めた金額を小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は¥952,000であり、当社では限度額を¥1,500,000とする当座借越契約を締結している。

第2問 (10点)

次の[資料]にもとづいて、(ア) から (ケ) に適切な金額を、(A) には適切な用語を答案用紙に記入しなさい。なお、減価償却の方法は定額法 (残存価額はゼロ) により行っており、減価償却費は月割り計算による。決算日は毎年9月末である。

[資料 I] 2019年9月30日現在の固定資産台帳

取得年月日	名称等	期末数量	耐用年数	期 首 (期中取得) 取得原価	期 首 減価償却 累 計 額	差引期首 (期中取得) 帳簿価額	当 期 減価償却費
建 物							
2012年8月10日	本 社	1	50年	(ア)	5,920,000	()	(イ)
備 品							
2015年9月10日	備品A	2	8年	(ウ)	()	4,425,000	()
2016年4月23日	備品B	1	5年	()	(エ)	(オ)	()
2019年3月27日	備品C	4	6年	(カ)	()	3,600,000	()
小 計				(キ)	10,375,000	()	(ク)

[資料Ⅱ] 備品勘定および備品減価償却累計額勘定

備			品					
日	付	摘要	借方	日	付	摘要	貸方	
18	10	1	前期繰越	10,560,000	19	9	30	次期繰越 ()
19	3	27	当座預金	(カ)				()
			()					()

備品減価償却累計額

日	付	摘要	借方	日	付	摘要	貸方	
19	9	30	次期繰越	6,377,000	18	10	1	前期繰越 ()
					19	9	30	(A) (ケ)
			6,377,000					6,377,000

第 3 問 (30 点)

桜商事株式会社の次の [2019 年 1 月中の取引] および答案用紙にもとづいて、答案用紙の残高試算表を完成させなさい。なお、当期は 2019 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までの会計期間である。クレジット手数料は販売時に計上する方法によっている。

[2019 年 1 月中の取引]

1. 必要な再振替仕訳を行う。

2. 現金取引

- (1) 現金売上 ￥ 1,256,000
- (2) 現金仕入 ￥ 985,200
- (3) 当座預金引出し ￥ 778,000
- (4) 当座預金入金 ￥ 885,000
- (5) 営業費支払い ￥ 1,325,000
- (6) 敷金の支払い ￥ 150,000
- (7) 家賃の支払い ￥ 200,000
- (8) 買掛金支払い ￥ 770,000
- (9) 手付金受取り ￥ 100,000
- (10) 源泉徴収税額の納付 ￥ 8,800
- (11) 売掛金回収 ￥ 652,000
- (12) 商品発送代金支払い ￥ 12,960

4. 売上取引

- (1) 現金売上 ￥ 1,256,000
- (2) 当座預金売上 ￥ 698,000
- (3) 掛け売上 ￥ 2,250,000
- (4) 手形売上 ￥ 960,000
- (5) クレジット売上げ ￥ 377,300
(手数料 2% 控除後)
- (6) 商品券の受取りによる売上げ
￥ 52,000

3. 当座取引

- (1) 当座預金売上 ￥ 698,000
- (2) 当座預金仕入 ￥ 1,265,200
- (3) 当座預金入金 ￥ 885,000
- (4) 当座預金引出し ￥ 778,000
- (5) 営業費支払い ￥ 940,800
(給料支給時の源泉徴収税額 ￥ 9,200 控除後)
- (6) 手形満期取立て ￥ 800,000
- (7) 手形満期引落し ￥ 650,000
- (8) 売掛金回収 ￥ 1,200,000
- (9) 買掛金支払い ￥ 980,000
- (10) クレジット売掛金の入金 ￥ 372,400

5. 仕入取引

- (1) 現金仕入 ￥ 985,200
- (2) 当座預金仕入 ￥ 1,265,200
- (3) 掛け仕入 ￥ 2,250,000
- (4) 手形仕入 ￥ 850,000
- (5) 手付金仕入 ￥ 150,000

第4問（8点）

あられ商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の2019年10月1日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、答案用紙に示した総勘定元帳の記入を示しなさい。

入金伝票	No.101
(売上)	150,000
入金伝票	No.102
(売掛金)	78,000
入金伝票	No.103
(当座預金)	60,000

出金伝票	No.201
(買掛金)	70,000
出金伝票	No.202
(仕入)	160,000
出金伝票	No.203
(営業費)	32,000
出金伝票	No.204
(支払手形)	60,000

振替伝票	No.301
(買掛金)	80,000
(仕入)	80,000
振替伝票	No.302
(買掛金)	93,000
(支払手形)	93,000
振替伝票	No.303
(売掛金)	62,000
(売上)	62,000

第5問（32点）

赤星商事の当期（2018年4月1日から2019年3月31日）における答案用紙に示した精算表を、未記入欄に適当な金額または勘定科目を記入して完成させなさい。

なお、未処理事項および決算整理事項（一部）は次のとおりである。

1. 現金の実際有高を調査した結果、現金¥32,000が不足しており、そのうち¥24,500は雑費の計上漏れであることが判明した。なお、不明分については雑益または雑損で処理する。
2. 受取手形、売掛金およびクレジット売掛金の期末債権残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、当期において貸倒れの事実はない。
3. 売上原価の算定は売上原価勘定で行う。
4. 仮受金勘定は、得意先からの売掛金の入金額が処理されている。
5. 建物は耐用年数40年による定額法（残存価額ゼロ）により減価償却を行っている。建物の一部（取得原価¥10,000,000、期首現在の減価償却累計額¥2,000,000）を12月に売却したさい、入金額を固定資産売却益勘定で処理している。なお、減価償却費は月割りで計算する。
6. 消費税の整理を行う。